

一般社団法人 全麵協

2024.3.20

ニュースフラッシュ 第36号



ニュースで伝える全麵協の今

発行:全麵協ニュースフラッシュ編集グループ
編集責任者:専務理事 赤羽 章司

令和5年度全麵協第6回理事会 開催報告

令和5年度全麵協第6回理事会が、令和6年3月9日午後6時からリモートにより行われました。

理事会の次第についてお知らせします。

- 1 議長及び議事録作成人指名
- 2 定足数確認
- 3 理事長挨拶
- 4 報告事項
 - (1)入退会報告 4ページに一覧表があります。
 - (2)事業経過報告
 - (3)段位認定会等報告…各支部長
- 5 議題
 - (1)役員を選任について
 - (2)令和6年度定時社員総会について
 - ① 日時:令和6年6月16日(日)午後2時
場所:東京都千代田区 如水会館
※6月16日午前10時から
如水会館で理事会
 - ②総会議案について
 - ア 令和5年度事業報告(案)…理事長
総括
 - 各部事業報告(案)…総務部
広報渉外部
地域振興部
段位認定部

- 指導普及部
研修センター運営部
企画部
- イ 令和6年度事業計画(案)
重点方策
各部事業計画(案)…総務部
広報渉外部
地域振興部
段位認定部
指導普及部
研修センター運営部
企画部
 - ・ 令和6年度収支予算案(決算報告を含む)について…萩原経理部長
 - (3)令和6年度5支部事業計画案について
 - (4)定款一部改正について
 - (5)そば道段位認定制度規程の一部改正について
 - (6)支援員の要綱の一部改正について
 - (7)特任審査員、全国審査員選任について
 - (8)その他

各支部から



首都圏支部名人戦・団体戦を開催

第3回となる首都圏支部の「名人戦・団体戦交流大会」を3月2日、3日の両日、常陸秋そばの発祥の地である常陸太田市北部の「かなさ笑楽校」で開催しました。

「名人戦」は、初段位から四段位まで各段位の名人を選出する形で、熱い戦いが繰り広げられました。

今回は、計量カップを使わずに、粉と対話しながら適量加水を判断してもらおうと、クジ引きで大小様々なヤカンを割り当てました。

選手の皆さんは、ヤカンの対応に四苦八苦する面が見られたものの、そこは腕自慢の面々であり、不慣れな用具にも惑わされずに適切なそばを打ち上げていました。

「団体戦」は、「二八」、「十割」、「更科」の3部門で行い、3人のグループの合計段位数を10段位までと制限しました。

更科部門では、茶そばを打ちましたが、茶そばは加水量が微妙で難しかったためか、悪戦苦闘する姿も見られました。

団体戦では、初めて応援の部の表彰を設けたことで、3月3日に相応しい雛人形の仮装も見られ、扇子や団扇、鉢巻も登場し、声援も熱がこもり、大いに盛り上がりました。

夜の交流会では、各地からの多彩な参加者でそば談義も弾むなど、そば道の目指す「自分づくり、仲間づくり、地域づくり」に結び付く有意義な2日間でした。

(首都圏支部広報渉外部長 齊藤富士雄)

会員だより

東北そば研究会が開催されました。

1 研究会開催主旨

東北地域におけるそば産地の更なる振興のためには、基本技術の励行による生産の安定化、実需者に沿った品質の確保、持続的な販売体制の構築などにより経営の安定化を図ることが重要です。

また、そばの新たな需要や販路を開拓し、産地の知名度向上を図りつつ地域振興に向けて取り組むことも重要です。そのため、東北そば産地の振興方策について意見交換を行う場として、東北そば研究会を開催しました。

2 主催 農林水産省東北農政局生産部園芸特産課

3 参加者 東北各県の行政機関・普及指導機関 公設研究機関・農研機構・生産者・実需者等

4 内容

(1) 基調講演

- ・「そば育種研究の最前線」
(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター
上級指導員 原尚資 氏
- ・「海外及び国内におけるそばの流通状況」
中央貿易株式会社
専務取締役 滝川 宏 氏
- ・「宮城県秋保地区におけるそばによる地域振興」～「そば」との出会いが多くの出会いにつながる～
宮城手打ちそば研究会
代表 柏倉寛充 氏

(2) 情勢報告

- ・そばをめぐる状況について
東北農政局生産部
- ・各県のそば振興の現状と課題
各県担当者

(3) 情勢・意見交換

5 研究会に参加してみても

・全麺協内の研修会などと違い、実際にそばの研

究や生産や流通に携わる皆さんからの報告がされた。そばアレルギー対応の品種改良など最先端研究の現状と成果があり、流通面からは、今年の猛暑にみられるように、天候不順が原因の生育不良とそれに伴う収穫量の極端な減少、更には国際情勢の変化から輸入面での不安定さに如何に対応していけばいいのかなど報告があった。

・宮城手打ちそば研究会はそばによる地域振興の立場からの参加であった。

基調講演の〈そばと出会い〉については、そば仲間・地域のみならず海外までそばの和は大きく広がっていること。

地域振興については、仙台市と共催で8年前から仙台秋保そばフェスティバルを開催、二日間で2000食近いそばを提供し、秋保生産組合の秋保在来そばのブランド化も定着してきている。

・仙台市・生産者・宮城手打ちそば研究会の三者が一体となって取り組んでいる活動に対して、多くの関心・質疑が寄せられ、地域振興を目指す全麺協のアピールにもなっていた。

(東日本支部広報渉外部長 遠藤徳生)



彩蕎庵がそば打ち体験教室を開催しています。

私たちは十数年前から近隣の野田市関宿小学校で授業の一環として「そば打ち体験教室」を開催しています。今回、先生にお話を伺いました。

現在の学校の在り方は、子供達の教育を学校だけが行うのではなく、地域と一体となって取り組む「地域と共にある学校」づくりが求められています。そこでそば打ち体験は「総合的な学習の時間」と体験学習の一環として、地域が連携し交流を図ることを目的とした授業になります。

また、地域の団体が実施している、そばの種まきから収穫までの農業体験を通して、食を生み出す農業、地域、自然の役割について理解を深めて

います。

さらに、小学校でそば打ち体験をすることで、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と、バランスの良い「食」を選択する力を身に付け、健康的な食のあり方を考えるとともに、だれかと一緒に食事や料理をしたり、季節や地域の料理を味わったりするなど、食育の学習の一環となっています。

子供たちの笑顔や歓声に私たちも元気をもらい、そば打ち教室を続けています。

(彩蕎庵 篠崎 正夫)



永沢寺そば打ち愛好会が結成25周年を迎えました。

令和6年1月14日(日)、永沢寺そば打ち愛好会25周年記念祝賀会が、神戸三宮 萬寿殿で行われました。

平成10年永沢寺そば道場でそば打ちを学んだ有志により結成され25年を迎えました。

安居会長の挨拶に始まり永沢寺そば道場主和田良三様のご祝辞をいただき、終始和やかな雰囲気が会場を満ちました。

先輩OBの方々もご参加いただき、三重県鈴鹿市から先輩会員も駆けつけていただき、大変懐かしくそば談義に花が咲きました。

25周年という節目を迎えましたが、安居会長の挨拶にあったように、5年先・10年先を見据えて、また一歩一歩歩みを進めてまいります。

(永沢寺そば打ち愛好会事務局 高田 勝也)



全麵協入会・退会会員のお知らせ

入退会	区分	支部	会員名	代表者	入退会日
入会	公共正	北海道	東川町	菊地 伸	2月15日
入会	公共正	北海道	北工学園旭川福祉専門学校	磯田憲一	1月31日
入会	公共正	北海道	東川町立東川日本語学校	菊地 伸	2月
退会	正会員	北海道	東家うさぎの会	佐藤洋輔	3月31日
退会	正会員	東日本	岩手県手打ちそばの会	遠山長守	3月31日
退会	正会員	東日本	小野町そば打ち愛好会	荒井 博	3月31日
入会	正会員	中日本	つばきの郷そば塾	志村邦夫	4月1日
入会	正会員	西日本	山口そば打ち倶楽部	伊嶋正之	4月1日
入会	正会員	西日本	布施そば道場	平松誠司	4月1日
入会	正会員	西日本	円融会 蕎麦部	佐藤秀志	4月1日
入会	正会員	西日本	関西上砂川手打ちそば愛好会	大内 卓	4月1日
入会	正会員	西日本	いずみ蕎麦工房	新平貞巳	4月1日

自民党蕎麦振興議員連盟等への活動支援要請を行いました

3月18日、七段位、六段位の認定会が終わり今年度の事業も概ね計画通り進められ、また6年度事業計画・予算案等を策定しているこの時期に、中谷理事長と山本副理事長が「自民党蕎麦振興議員連盟」の幹事長である亀岡偉民衆議院議員、同事務局長中村裕之衆議院議員に、全麵協の活動状況等を報告するとともに、今後の事業展開に伴う国の支援等について要望を行いました。

両議員とも大変関心を持っていただき、亀岡幹事長からは農林水産省の事務次官、農産局長等を紹介していただき、急遽、面談することができました。

中村事務局長は北海道4区選出であることから、山本副理事長から北海道における全麵協の活動状況等についてご説明しご理解、ご支援等をお願いしました。

また、堂故茂国土交通副大臣に面談を求め、全麵協の手打ちそばの技術・人材等について観光行政で取り上げていただくようお願いするとともに、(前)富山県モンゴル友好親善協会会長を務められていたことから、モンゴルとのそば打ち交流についても支援をお願いしたところです。



2月27日には、以前から親交のある国際交流に熱心な逢沢一郎衆議院議員にお会いし、諸外国との交流などについて意見交換を行うとともに、岡山県が地元であるため、5月開催する「そば大学in尾道」への出席も依頼したところです。

また、自民党蕎麦振興議員連盟の会長である宮下一郎衆議院議員にお会いし、今後の全麵協の活動への協力をお願いしました。

このように全麵協本部では、当会の活動に公的機関からの支援が得られ、社会からその活動がより高く評価されるよう、国会議員を始め関係者へ今後も働き掛けていきます。

(本部事務局 萩原 敏彦)

皆様からの情報提供をお待ちしています。

全麵協ニュースフラッシュ編集グループ

編集責任者 赤羽章司

編集主任 原秀夫

チーム員 山本良明 萩原敏彦 横田節子